

2016年7月3日

樽前山1793年火砕流に伴う炭化木第2回調査報告

苦小牧川源流部「大から沢」

報告者 泉田健一

◆報告事項

道道141号樽前錦岡線を境にして苦小牧地区に苦小牧川上流部標高400m付近に炭化木をもとめ、本日3日午前中に第2回目の調査を行った。1日の調査では、道道寄りの苦小牧川小から沢)で想定通り400m付近の3箇所で見つかった。それを受けて、隣の苦小牧川大から沢にも同じ想定で調査に入った。

入山場所は、第1回目と異なり樽前山五合目ゲートから200mほど苦小牧寄りにある苦小牧川



にかかると樽前2号橋の右手にあるH16年の台風時に伐採処理した跡が方位50度に切り開かれているので、それに沿って進み、途中から浅い沢

状を見つけ、それを素直に下るとハング状の滝の上部に出る。左手に回り込んで滝下に下りる。そのすぐ下で最初の炭化木を小沢に右岸に見つける。(直径14cm、17cm2本)



すぐ本流(395m)に出るが、水は伏流している。沢砂に前日の大雨の流れが見られるのと、砂鉄が多く含まれているのが見て取れる。倒木の多い中を上流に進むと地図上の二股に出る。(実際は三股)左股の幅が広いので初めは左股に入る。しばらく進むと第1回目と同じく、固いが粘土状

に見える地層が左岸に現れ、沢床と側壁が接するところに立木の炭化木が1本あった。出水時に水に洗われているのか表面も綺麗だ。よく流されなかったと思われるが、今後、流される可能性もある。更に詰めると左右壁が広がり、左右岸壁の地層は対照的だ。左岸は土壁。右岸は、苔の洞門、



楓沢と同じような凝結した壁となっている。その先で2段5mの滝になっている。その右壁が崩れているところに炭化木が見られる。崩れた土砂に隠れているが、立木の炭化木（直径18cm）のほか、10～12cmのものが3本確認する。



隣の右股に移ろうとすると中央に沢があり、二股ではなく、三股であることが判明する。中央の



沢は奥深くなく、すぐにオーバーハングの滝（12～3m位）で行き止まりだ。滝の壁中央部を見ると太め（目測20cm位）の炭化木が見られる。上の層にも炭化木が確認出来るがサイズまでは、見て取れない。滝下に8cm×L15cmほどの炭化木も確認する。

最後に右股に入ると沢床に小さいながらも炭化木が確認される。沢は狭く、倒木がひどいので進



むのをあきらめかけたが、何とかくぐり抜けて進むと、直径が20～50cmの苔むした沢石の中に直立する炭化木（直径20cm×高さ85cm）が流されないであった。その上流にも小さい炭化木のかげらが見られたので、そのまま沢を詰めていくと浅い二股になり、右股を取って詰めていくと広い台地になる。別の伐採処理跡が切り開かれているところをしばらく進み、途中から右に大きくルートを取って苦小牧川小から沢右岸沿いに進んでスタート地点のゲートに戻った。

◆感想

第1回目調査の小から沢より沢幅が広く崩壊している箇所も多かった。ただ、直立の炭化木が2本見つかったことは、大きな収穫であった。

その後の調査でその上部に直立木が更に2本見つかる。

また、2段の滝上部（三股の左沢）の調査も後日行った結果、標高が400m以上のところでも20cm以上の炭化木が見つかった。